

「えどとり ICT 教育」と ICT 活用の共通認識

江戸川学園取手小学校では、教育の特徴の一つに ICT 教育の実践をあげ、「3年生からコンピュータによる情報通信教育 (ICT の教育) を行い、情報リテラシーの獲得に努めさせます。パソコン検定などに積極的に参加させ、技能面の習得に努めさせます。」としている。このことより、本校では充実した ICT 教育を計画実践するため、「えどとり ICT 教育」を制定し、次の基本方針に則って事業を推進していく。

基本方針としては、(1)「えどとり ICT 教育」を通じて学習活動をさらに充実する。(2) ICT を活用し「さらにわかる授業」で子供たちの確かな学力を育てる。(3) 小・中・高一貫教育を見据えた多様な学習活動を実施する。

(1)「えどとり ICT 教育を通じた学習活動の充実」では、本校の ICT 環境を生かし質の高い授業を目指す。電子黒板を用いた視聴覚に訴えた学習やタブレット PC で多様なテーマを練り合わせ追究する協働学習など、探究的な学びの実現を図る。

(2)「ICT 活用による『さらにわかる授業』の実現と確かな学力育成」では、大型ディスプレイや書画カメラを使った学びや、協働学習でタブレット PC を使った授業を行う。

基本である教科書、黒板などによる授業に ICT 機器の特性を組み合わせることで、「学習課題や成果を拡大投影したり一覧表示したりする」「発表に ICT 環境を生かすことでプレゼンテーション能力を高める」など、授業の幅と効果を高めていく。また、教師と子供、子供同士の双方向の学びを高めながら、子供の主体的な学びや思考を促す。

(3)「小中高一貫教育を見据えた多様な学習活動」では、小中高 12 年間の系統的な ICT 活用による学びの実現を視野に、共通の ICT 実践力や、児童生徒への系統的な ICT 活用力の育成などを目指す。

ICT 活用の推進を図る際の共通認識として、(1) ICT『も』活用できる教師、(2) ICT『も』活用して、分かる授業、(3) ICT『も』活用できる児童・生徒を育てる、の 3 点をもつこととする。

ICT はあくまで教育活動をサポートする道具として活用する。従来の黒板や従来の黒板と電子黒板が併用された授業の方が、児童生徒の理解度が向上する場合もあり得ることを意識し、より効果的な授業を行うことを目指す。アナログの方が効果的なものをわざわざ電子化することはあえてしない。方法論ではなく、いかに理解を促すことができるかを常に課題としてとらえることが重要である。